

Q8 《流れ図④》抽出した課題同士の関連の整理や中心的な課題を導き出すことは、どのように行いますか。



特別支援学級担任

課題同士の関連の整理は、どのようにするのでしょうか。



通級指導教室担当

中心的な課題は、どのように決めるのでしょうか。



特別支援学級担任

生徒の実態を把握するときに、様々な要因が考えられたり、専門的な知識を必要とする要因が考えられたりする時に、その見方でよいのか迷うことがあります。

A 抽出した課題同士が「原因と結果の関係」、「相互に関連し合う関係」にあるのかを整理し、それらの関係から中心的な課題を導き出します。

抽出した一つ一つの課題は、単独で生じている場合も考えられますが、相互の課題が関連している場合もあります。関連の仕方には、原因と結果の関係、相互に関連し合う関係などが見られます。こうした因果関係等を整理していくことで、他の多くの課題と関連している課題の存在や、複数の課題の原因となっている課題の存在などに注目できます。それらの関係から、中心的な課題を導き出します。

下記の例は、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編 P156～159 に示されている、読み書き障がいの生徒の例を元に、抽出した課題同士の関係を整理し、中心的な課題を導き出したものです。

(例) ※(健)(環、コ)等は自立活動の区分。

【③抽出した課題の関連】

原因 ・自分自身の困難の状態やその原因を理解する。(健)



結果 ・代替手段の選定とその習熟、代替手段の適切な使用により学習上の困難を軽減させる。(環、コ)

・代替手段や自分の得意なことを生かした方法を適切に使用することにより、学習上の困難を軽減させる。(コ)

⇕ **関連**

・方法を工夫すればできるという自信を高めていく。(心)

【④中心的な課題】

・読み書きの困難を軽減するための自分に適した方法がわかり、その方法が必要である理由を理解する。

・学習上の困難を改善するための認知機能の大きく向上することについては、高等学校第1学年という生活年齢ではあまり期待できないため、代替手段の活用を重視する。

・得意なことを生かして苦手なことを補うことができるようにする。



この手順も、複数の教師で検討する体制が求められます。

校内で複数の体制を組めない場合は、近隣の特別支援学校の巡回相談員(特別支援教育コーディネーター)を活用しましょう。